

相談室だより No.2

石川県立野々市明倫高等学校相談室

保護者の皆さんに向けた「相談室だより」の第2号です。

一学期が終わりました。ここ数年、夏が来るたびに異常気象という言葉を目にするように思いますが、今年の夏は特に自然の恐ろしさを思い知らされました。被災された方々が一日も早く日常を取り戻されるよう、祈りたいと思います。ただ、傷ましいニュースが多い中で、高校生が復旧作業に汗を流していると言う記事を見て、頼もしく感じました。そして改めて、社会の中で高校生も大人としての役割を担っているのだと実感します。明倫生もこの四ヶ月の間に、一人ひとりが成長し、三年生は受験生の顔になり、一年生も高校生らしくなってきたように思います。夏休みを越えると、また一回りたくましくなってくれることでしょう。

さて、そんな高校生と、親としてどう向き合い、付き合っていけばいいのでしょうか。私自身いつも思うことですが、わが子に対しては、いつまでたっても「子ども」と思って見てしまう自分がいます。すでに成人しているにもかかわらず、「こんなふうであって欲しい」「こんな人生を歩んで欲しい」と願っている自分がいます。親としては、わが子に人としてよりよい人生を歩んで欲しいと願うのは当然のことだとも思っています。けれども、ときどきふっと反省するのは、私がわが子に願う「こんな人生」は、果たして、わが子が願い、思い描いている人生だろうか、ということです。

「わが子」という言葉は、ともすると親である私たちに「この子どもは自分のものだ」という錯覚を起こさせてしまうように思います。そして、親の価値観、人生観をもとに「望ましい人生」「あるべき人生」を思い描き、子どもにその通りに歩んで欲しいと願ってしまう。そんな時、もちろん親は「わが子のため」に「よかれ」と思って話をしますから、その言葉がわが子にとって重荷になろうとは思ってもみません。けれども、わが子とはいえ、そこにいるのは自分とは別の人格を持った一人の人間です。別の考え方、別の理想、別の望みを持っていて当然なのでしょう。

子どもたちは時々、自分の進むべき進路に迷い、時には親が思いもしなかったことを言い出します。親としては、安全な道を歩ませたいと思いますし、人生の先輩としての経験から、子どもの考えていることが、あまく、危険なものにばかり見えてしまいます。けれども、わが子の人生はわが子のもので、最後の責任は親といえどもとってやることはできません。子ども自身が自分で選び、決めたからには自分で責任を持つしかありません。親にできることは、じっくりと子どもの気持ちをきくことと、経験で得た広い視野で、「こんな選択肢もあるよ」と示してあげることくらいなのだと思います。親としては寂しい限りですが、自分で決めてこそ、覚悟を決めて歩いていけるのではないのでしょうか。

「失敗しても、回り道しても、あなたのことをしっかり見守っているよ。大切に思っているよ。」そんな気持ちで子どもたちが自信をもって自分の道を選び、歩いていくのを支えたいものです。

さて、以前にもお知らせしたスクールカウンセラー坂原先生の、今後の来校日を裏面に乘せておきます。お子様のことで気になることがありましたらいつでもご相談ください。

なお、面談を希望される場合は、時間調整の都合がありますので、前もってご連絡ください。

連絡先

明倫高校 TEL 076-246-3191

相談室担当 高宮雅子・南淳子



スクールカウンセラー9月以降の来校予定

9月	13日(木)	20日(木)	27日(木)	
10月	4日(木)	11日(木)	18日(木)	25日(木)
11月	1日(木)	15日(木)	22日(木)	29日(木)
12月	6日(木)	13日(木)	20日(木)	
1月	10日(木)	17日(木)	24日(木)	31日(木)
2月	7日(木)	14日(木)	21日(木)	
3月	14日(木)			

いずれも 14:00~17:00まで

